

自治大卒業生の声③

自治大学校卒業生（第1部・第2部特別課程第35期）

久喜市役所 川田 直美

編集者注：本稿は、自治大学校における演習・講義の特長や卒業後の研修効果の発揮などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

平成30年9月21日（金）、第1部・第2部特別課程第35期卒業式。自治大学校、校歌斉唱。「自治大学校での学びに対し、自分の行動に後悔することはない。精一杯やり遂げた。」そう思いながら、達成感で満たされていた。

私は、基本法制研修B第1期及び第1部・第2部特別課程第35期を受講した。それぞれの研修について、研修受講前の課題や研修内容、効果測定を含め、振り返ってみたい。

2 基本法制研修B第1期

地方自治に重要な関連を有する基本的な法制（行政法、民法）や地方自治制度、地方公務員制度及び地方税財政制度に関する高度な知識及び広範な見識を修得するもの。

（1）研修受講前の課題

- ① 行政法では、過去の行政判例について、事実の概要、判旨からその事例の争点を見つけ、論点を整理したものを各グループが発表等を行う演習が主な内容であった。この演習に当たり、各自、グループ課題として設定された判例について、論点整理し「検討事項ペーパー」にまとめた。
- ② 地方税財政制度では、「所属する自治体の財政状況について」をテーマとしたレポート作成があった。

（2）研修内容

行政法以外は、全て講義形式で行われた。地方自治制度、地方公務員制度、地方税財政制度は、基礎的事項から始まり、最近の法改正内容等の説明があった。特に地方税財政制度では、消費税率を引き上げる必要性について、日本の社会保障制度の課題等が背景にあることを改めて学んだ。

民法は、講師の工夫を凝らした分かりやすい説明のおかげで講義内容を十分に理解できた。

（3）効果測定

行政法、地方自治制度及び地方公務員制度は効果測定があった。

行政法は演習を中心に講義が進められたので、効果測定でどのような問題が出題されるのか、見当もつかなかった。地方自治制度、地方公務員制度は、広範囲の講義内容を押さえておく必要があったことや、効果測定前日まで講義があったこともあり、内容的にも時間的にも、事前勉強に大変苦労した。

3 第1部・第2部特別課程第35期

「地方公共団体女性幹部職員養成支援プログラム」として、将来の地方公共団体を担う女性幹部候補生において、中枢幹部として必要な政策形成能力及び行政経営能力を修得するもの。

（1）研修受講前の課題

- ① 所属する自治体の具体的な行政課題等について、その概要や経過、問題点等をA4レポート用紙2枚程度にまとめた。

② 事前に郵送で届いた2冊のテキスト「行政経営の新たな取組」及び「地域課題の解決に向けた新たな取組」を読み、テキストに記載された各事例の検討事項について、「検討事項ペーパー」にまとめた。あわせて、各事例を元に、久喜市の現状について、各担当者に問い合わせ、情報収集を行った。

③ 与えられた5つのテーマの中から1つのテーマを選択し作成する「特定政策課題レポート」があった。レポートの文字数は8,000字から10,000字程度というものであり、研修受講中に仕上げるのは相当難しいものと考え、事前に作成した。

(2) 研修内容

講義科目は、政策形成能力を養成するため、公共政策論を幅広く学び、また、地域政策等個々の政策分野について必要な知識を修得するものであった。様々な分野の講義を受講したが、私が一番新鮮でかつ衝撃を受けた講義は「多文化共生と地域社会」であった。少子高齢化により人口減少が進む日本では、私たちの地域においても、外国人とその家族が世帯として暮らすことについて、私たちが理解して受け入れなければ、地域が崩壊してしまう。「地域の未来のための多文化共生」実現のために、市職員として私は何ができるのか、考えさせられた。

演習科目では、事例演習及びディベート演習があった。事例演習における班別討議では、班で検討・討議を行うに当たり、まず初めに発言することを心がけ、他の班員が発言しやすい雰囲気を作った。また、ディベート演習では、「中心市街地活性化を郊外開発に優先すべきか否か」が論題として与えられたが、漠然としたテーマであったため、指導教官に地域を限定していただくよう依頼したところ、八王子市が論題の対象地域となった。そこで、現状を把握する

ため、八王子市が中心市街地として設定した区域を日中と夜間に視察し、それぞれの特徴と思われる点を資料としてまとめ、主張を支える論理を構築した。

(3) 効果測定

事例演習及びディベート演習は効果測定があり、演習での発言内容、参加状況等を踏まえ指導教官が評価を行うものであった。

4 おわりに

卒業式、校長式辞を聞きながら、「私がこの自治大学校で学べたのも、職場の理解や家族の協力があつてこそ」と思い涙が溢れた。そして、共に学んだ自治体職員で作上げた絆とネットワーク。私は、この自治大学校で自身の成長を感じ、また多くの素晴らしい人財と巡り合うことができた。様々な行政課題を抱えた険しい地方公務員としての道のりに、私の背中を力強く押してくれた自治大学校。住んでいる場所や環境が違えども、共に進む仲間たちと、これからも真っ直ぐ前を向いて歩んでいきたい。